

# 道博協ニュース 第133号 (2023年10月27日発行)

## 第61回北海道博物館大会を開催しました

2023年7月13日から14日の二日間にわたり、第61回北海道博物館大会を恵庭市で開催しました。

今回は特別報告の講師として公益財団法人日本博物館協会の半田昌之氏に加え、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課の永塚智之氏をお招きし、今年度改正された博物館法下における登録申請の手続きや今後のスケジュールについてご報告いただきました。

今大会の大会テーマは「地方博物館から「文化観光」を考える」でした。基調講演は文化庁参事官文化拠点担当付の調査官である竹内寛文氏と中尾智行氏のお二方をお招きしました。「文化観光が目指す好循環づくりと、博物館に求められる役割」と題し、そもそも文化観光とは何か、という基本的な点と、博物館と文化観光との関わりや考えかたについて、リレー形式でご講演いただきました。



研究大会の様子

個別報告は、観光に従事する立場から博物館との関わりや博物館に期待する役割について、恵庭市と小樽市での事例を一般社団法人恵庭観光協会事務局長の沼倉健一氏と一般社団法人小樽観光協会事務局長の永岡朋子氏からご報告いただきました。また、博物館と観光について、博物館の日頃の活動が観光にも結びついている、という例を、釧路市立博物館学芸主幹の石川孝織氏からご報告いただきました。

また、久しぶりに懇親会も開催しました。講師の皆様と、あるいは会員の皆様同士で、親睦を深める機会となりました。

2日目のエクスカージョンは、恵庭市郷土資料館及び千歳市教育委員会の皆様のご協力により、2つのコースを設けることができました。Aコースが「遺跡めぐりコース」、Bコース「ガーデンめぐりコース」で、恵庭市のカリンバ遺跡や千歳市のキウス周堤墓群、「花のまち恵庭」を実感できるオープンガーデンなどを見学しました。開催地である恵庭市およびその周辺の魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。



エクスカージョンの様子

大会の準備や運営には、恵庭市郷土資料館の皆様、道央地区博物館等連絡協議会の皆様にご多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。

来年は7月11日、12日に函館市での開催を予定しております。開催地である函館市や道南ブロック博物館施設等連絡協議会の関係者の皆様のご協力を得て鋭意準備中です。来年も皆様ふるってご参加ください。

[事務局 北海道博物館 尾曲香織]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

## 月形樺戸博物館に彫刻家・

## 本田明二ギャラリーオープン

月形町出身の彫刻家・本田明二氏の作品が令和2年にご遺族から寄贈されたのを受け、博物館の一角を改修し令和5年4月22日に「本田明二ギャラリー」がオープンしました。

展示室は黒を基調とし、高さ40センチと80センチの展示台に彫刻21点、壁面にはデッサン8点を展示しています。メインとなる作品は、旭川球場にあるスタルヒン像の石膏原型で、部屋の中央に展示しています。

本田明二(1919-1989)は、この北の大地に根を下ろし創作に向き合い続けた彫刻家です。札幌第二中学校(現・札幌西高等学校)卒業後は東京の木彫刻家・澤田政廣に師事するために上京。戦後、シベリア抑留を経て28歳より札幌に定住。32歳で自身初の個展を開きます。その後、展覧会への出品の他、記念碑などの制作依頼を多く受け道内各地の公共施設に作品が設置されています。

著名な彫刻家が活動の拠点を東京に移していく中で、北海道で制作を続けることにこだわりました。また、札幌市南区にある札幌芸術の森建設計画にも携わり、北海道外の彫刻美術館を



調査するなど、北海道の芸術発展に貢献。北海道彫刻界のリーダー的役割を果たしてきました。

本田明二の作風は、素朴で温かみがあり、対象物をつぶさに観察しながらも時に大胆な簡略表現を用い、具像と抽象の狭間を行き来する独自の存在感を放っています。「けものを背負う男」シリーズは、写実的から抽象的へと作品スタイルが変化していった代表と言えます。作品タイトルはどれもシンプルで、名前から広がるイメージをできるだけなくしているとされています。

月形樺戸博物館の彫刻家・本田明二ギャラリーをご覧ください。

[月形樺戸博物館 学芸員 野本和宏]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

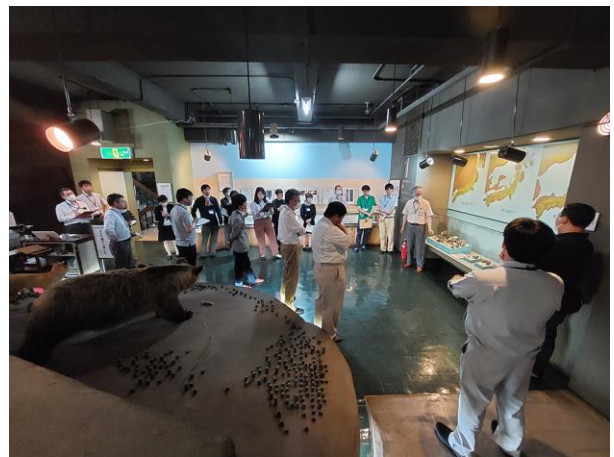
## 総会および研修会を開催しました

令和5年6月28日(水)、松前町町民総合センターにおいて道南ブロック博物館施設等連絡協議会総会・研修会を開催しました。

総会では令和4年度に実施した事業等の報告と、令和5年度事業計画・予算が承認されました。

その後の研修会では、“「ハンズ・オン展示」の実践”と題し、事務局による趣旨説明とグループワークが行われました。博物館施設では、入館者に展示内容の理解を深めてもらうことを目的に、展示資料を実際に手で触れるなどの「ハンズ・オン展示」を取り入れることが増えています。

そこで当会では、各加盟館が状況に応じたハンズ・オン展示を考えて実践できるよう、参加者同士の情報交換や、松前町郷土資料館を参考施設と



研修会の様子

した実践計画の意見交換を行うこととしました。

松前町郷土資料館は今から47年前、昭和50年に開館しましたが、現在に至るまで大々的な展示改修は行われていません。

研修会では、先行事例として五稜郭タワー、北海道坂本龍馬記念館、上ノ国町教育委員会、ピリ

カ旧石器文化館のハンズ・オン展示が紹介され、これを踏まえて松前町郷土資料館の展示を見学、その後4つのグループに分かれてハンズ・オン展示の実践案の作成に入りました。

グループごとの発表では、船絵馬の展示にあわせて受験の合格祈願の絵馬を貼り付けるコーナーを設ける、ニシンの俵物の重量を体感できるように重りを入れた縄筵を置く、舟箆が水に浮くの

か実際に沈めてみる、陶磁器の文様デザインをスタンプにするなど、数々の案が提示されました。半世紀近く前の展示内容でも、ハンズ・オン展示を加えることで、まだまだ活用の幅が広がることを認識した研修会でした。

[松前町郷土資料館 学芸員 佐藤雄生]

#### 日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

### えりも町で久々の開催～

### 令和5年度総会・研修会行われる

令和5年5月25日、えりも町福祉センターを会場に日胆地区博物館等連絡協議会の総会・研修会が行われました。昨年からの通常対面開催が行われるようになり、えりも町には平成11年の研修会開催以来24年ぶりにお邪魔しました。

総会では、令和4年度の事業・決算報告、令和5年度の事業計画・予算協議をいたしました。概ね原案通りですが、予算に昨年からの検討されていた令和9年度の「30周年記念事業」に向けて新しく「積立金」科目を設置することで承認されました。また、令和5年度は役員改選期にあたり、会長に浦河町の伊藤昭和氏（新）、副会長に白老町の武永真氏（留）、平取町の長田佳宏氏（新）が



総会の様子



幌泉燈台

選出され、可決されました。

総会後には各館の近況報告を行い、各館の事業予定や新人の紹介などが行われました。

報告後には研修会として文化財探訪を行いました。今回の研修会は登録有形文化財の「幌泉燈台記念塔」をえりも町の中岡氏、高橋氏、堂元氏の案内で見学させていただきました。特別に燈台の中に入れるということで、3～4人ずつ交代で登らせていただきました。普段入ることが出来ない内部は、思ったより階段が急角度で狭く大変でしたが、苦勞した甲斐があって、屋上からは併設の広場や漁港への眺望が良かったです。町のシンボルとして現在も町民に親しまれ、活用されている文化財を残す、維持する大切さを改めて感じました。

[厚真町教育委員会 奈良智法]

#### 道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

### 昔の街並み写真展の開催について

美瑛町郷土学館（愛称：丘のまち郷土学館「美宙」）では、令和4年9～10月に昭和15年（戦前）と同28年（戦後）の美瑛町市街地地図と当

時の街並みの様子がわかる写真を使い、企画展「写真で振り返る美瑛の街並み」を開催しました。

本企画展は、当館の前身である美瑛町郷土資料館制作の地図、郷土学館へ寄贈された写真及び美瑛町郷土史料保存会が収集した写真を中心に構成しました。企画展のプレお披露目として、本町の開拓記念式典会場に企画展の一部を展示し周





写真で振り返る美瑛の街並み

知の機会としました。展示をご覧になった方の口コミで来館された方がいらっしやるとともに、期間終了後もお問い合わせをいただくなど多くの反響がありました。企画を通じて、市街地の変化を感じていただくとともに、私の家にも昔の写真があると寄贈に結びつくケースもあり、眠っているお宝発掘の機会ともなりました。また、企画展に合わせて昔の思い出話を語り合うサロンも実施し、16名の参加がありました。参加者は、農業・商業を営んでいる(いた)方や行政職員OBも参加し、農作業や道具のこと、街並みや昔行われていた行事の思い出などを思い思いに語っていただきました。写真はそれ自体が貴重な資料ではありますが、それらを見て来館者が思い出す事柄は当時を物語る貴重な証言ともなります。こうし

た取り組みによって写真の寄贈は増えた一方で、写真が撮影された時期や場所の特定に難儀しており、郷土史料保存会の方のお力添えをいただいています。町の歴史を語れる方々が減少していく中で、今後写真の整理が課題となっています。

当館で行っている事業の中でこれらは町民の関心が高く、継続的に実施していく予定です。白黒写真をカラー化して展示する、写真だけでなく映像を収集し活用するなど内容を充実させ、今後もより一層町民の関心を喚起していきたいと考えています。



昔の写真で語り合うサロンの様子

[美瑛町郷土学館 業務係長 荒明慎久]

#### オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS



平成10年4月28日に、誕生した木のおもちゃワールド館「ちゃちゃワールド」。

「見て」「触れて」「遊ぶ」を基本コンセプトとし、館内には世界約40か国から集めた木製玩具が展示されているほか、木のぬくもりを感じながら遊ぶことができる広場や、影絵の巨匠として知られる藤城清治氏の影絵美術館など、子どもから大人までが楽しめることができる施設として、多くの皆さまにご利用いただき、今年で25周年を迎えました。

ここ数年の新型コロナウイルス感染症拡大は、「三密」になりやすく、感染リスクが高い屋内集

客施設の運営に大きな影響を与え、長期の施設休館や企画展の延期・中止などの制約を受けたほか、休館期間後は徹底した感染症対策を施すなど、今までとは異なる形での開館を余儀なくされました。施設として、展示空間の換気、入場時のマスク着用、手指衛生等の一般的な対策、対人距離確保などを行い、お客様が安心して施設を利用して



もらえるよう努力を行ってきました。コロナ禍の影響で大幅に減少した来館者数も、昨年度から徐々にではありますが回復傾向にあります。

ちゃちゃワールドを利用されるお客様の多くは、小さいお子様をお連れであるため、木の玩具の消毒については、安心して遊ばせることができると、多くのお声をいただきました。

4月29日と30日に開催された、記念イベントでは、パフォーマーKUROさん製作のバルーンフォトスポットを館内に設置したほか、ワークショップの開催やキッチンカーによる飲食コーナーなど、子ども連れの家族で大いににぎわいを見せ

ていました。また、25周年を記念として誕生した公式キャラクター「キノッピー」「ブロックマ」の記念スタンプやオリジナルグッズの配布など、お客様が楽しめる企画を今後も計画しています。

私たちは、改めて博物館としての役割の難しさを実感していますが、今後も色々なことを模索し、「見る」「触れる」「遊ぶ」を基本に、木の大切さ、木のぬくもりに触れながらちゃちゃワールドでのひと時をお客様に提供していこうと思います。

[ちゃちゃワールド 山本美浩]

### 道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

## 帯広百年記念館特別企画展『十勝縦断生物誌』

帯広百年記念館では毎年特別企画展を実施しており、今年度は8月5日から9月10日まで『十勝縦断生物誌』と題して開催しました。

通常企画展は館単独で実施するものですが、今回は複数館の協力で構成しました。

協力体制は当初の発想にはありませんでした。筆者は野生生物系が専門ですが、平成5年以来、企画展を9回実施し、単館の資料だけでは新しい展示の実施に限界を感じていました。

そこで、ひがし大雪自然館と浦幌町立博物館との協力を考え、「縦断」の二字が浮かびました。同時に釧路市博物館から「オサムシ展」展示の打診があり、展示に組み込んで充実できると判断、道東3管内博物館施設等連絡協議会への協力依頼につながりました。

十勝地方を山地、平野、丘陵、低地の4つの区域に分け、それぞれの景観要素の地形と生物を展示しました。重要なことは、標高別生物分布ではなく、「景観の顔」は何なのか？です。

4区域を展示室の壁に配し、この中央には展示の核である「らしさ」のコーナーを設けました。ここで述べたのは、マツムシソウなど十勝川を挟んで東西にそれぞれ限定した分布を持つ植物群。ミズバショウとエゾノリュウキンカなど、山地にだけみられる植物種の「組み合わせ」。アオカナブンなど山地では見られない生物群。浦幌にみられるヒグマの遺伝子の系統やエゾエンゴサクの

葉の変形です。これらの多くはフィールドワーク時の「違和感」として捉えられます。これらの生物群と地域のよくある生物景観の「組み合わせ」こそが「その地域らしさ」の正体であると表現しました。

ヒグマを3頭展示し、複数の地域系統の混在を表現したほか、シマフクロウ、ハクガン、多くの植物標本などを組み合わせ、単館では表現し得ない展示を完成させました。

多くの館は企画展スペースが狭いため、多くの資料に展示機会が回ってきません。今回の展示は、地域の資料を有効に使う意味でも有意義だったと思います。このような取り組みはもっと行われていいと感じました。

本展示の動画がYouTube 帯広百年記念館チャンネルでしばらく公開されています。ご覧ください。



[帯広百年記念館 池田亨嘉]



日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

## おかげさまで 60 周年

## 「魅力アップする動物園」

今年、おびひろ動物園は、おかげさまで開園 60 周年を迎えることができました。

当園は、昭和 38 年 7 月に札幌市円山動物園に次ぐ道内 2 番目の動物園として開園し、十勝・帯広はもとより、道内外の多くの皆様に親しまれ、幼児からお年寄りまで幅広い年代の皆様にご来園いただいております。

令和 2、3 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、全国の動物園で臨時休園を余儀なくされるなど、来園者数の減少がみられる中、昨年度は開園以来の来園者数が延べ 1,000 万人を超え、市民をはじめ関係される皆様の深い愛情とご理解、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

また、近年では施設の老朽化や動物福祉、社会教育施設としての役割など、多くの課題や使命を抱える中、令和 2 年に、おびひろ動物園の魅力アップに向けた方針を策定し、現在は方針に沿って、十勝・帯広の特色を活かした展示や楽しみながら学べる施設機能の充実などの取り組みを進めております。

60 周年を迎えた今年度は、ご寄附によるビジ

ターセンターの整備をはじめ、十勝の開拓で大きな役割を果たした「ばん馬」を導入しての「馬ふれあい舎」の整備や、東エリアの利便性向上のため、災害時には被災地域等に移動して活用できる自立型可動式ハウスによる UD トイレの整備を行うとともに、キリンの飼育・展示環境の改善を図るため、来年度の完成を目指して「新キリン舎」の整備を進めております。

当園も「いのちの博物館」として多くの生き物を飼育展示しており、これからもお客様にワクワク感を与え続けられる、動物が生き生きと展示される、職員が誇りを持てる動物園を目指して取り組んでまいります。



おびひろ動物園ビジターセンター「ハピネスホーム」

[おびひろ動物園 園長 稲葉利行]

学芸職員部会 NEWS

## 博物館資料台帳の難しさ

平成 15 年、筆者は厚沢部町郷土資料館に着任しました。昭和 60 年に開館した厚沢部町郷土資料館は、開設当初は資料台帳が作成されていましたが、その後の受け入れ資料は台帳登録されることがなく、常設展示室、あるいは地下の収蔵庫に搬入されていました。正式な受納手続きがなされていない資料も多くありました。幸い資料点数が少なかったため、その後すべての資料を再登録することができました。

資料の台帳登録に苦勞をしていない館は無いと言って良いでしょう。何より、博物館資料の受け入れは突然やってきます。「札幌から息子さんが来ているから今日のうちに判断してほしい」という電撃的な依頼がほとんどです。とりあえ

ず、必要な資料を選別して博物館で受け入れし、整理や台帳記入は後回しというパターンが生まれます。既存資料の台帳登録が完了している場合でさえ大変なのですから、台帳登録が滞っている館ではさらなる混乱を巻き起こすことでしょう。博物館資料の台帳登録は博物館の基礎でありながら難易度の高いものといえます。

博物館資料登録の難易度の高さは図書館における図書目録作成の難易度と比べるとよくわかります。厚沢部町図書館では受納図書の ISBN コードをバーコードリーダーで取得し、書誌データベースから書誌情報をダウンロードしています。ダウンロードした書誌データを図書目録データベースにマージすれば登録作業は完了します。作業時間は 100 冊あたり約 1 時間です。これは図書が定型的な書誌情報をもつために可能となることです。これに比べて博物館資料は「資料名」という基礎情報でさえ外的な基準をもち

ません。受納した資料を前にして「さて、これは何と呼称しよう」と悩むことは博物館資料に特徴的な処理といえます。

令和5年度の学芸職員部会研修会では、博物館におけるコレクション管理をテーマに研修を行います。とりわけ、コレクション管理の中核とも言える資料台帳に焦点をあて、問題の切り分けを行い、資料台帳作成の困難さの正体を探ります。また、それぞれの館の資料台帳を持ち寄り、資料台帳の悩みについてグループワーク

を通して解決します。私が行っている厚沢部町郷土資料館の資料管理にも致命的な欠陥があり、時間とともにボディブローのようにダメージを受けています。学芸職員部会の研修では、私自身の悩みが解決することを第一目標として運営したいと考えています。

[学芸職員部会 厚沢部町郷土資料館 石井淳平]

#### 北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

### 新型コロナウイルス5類移行後の 利用者サービスのあり方について

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が「5類」に引き下げとなり、科学館にも徐々に「日常」が戻り始めている。コロナ禍の3年間で取り入れた利用者サービスの中で、これからも継続したいと考えているものを共有するために、5月に実施した館長会議では各館の状況について情報交換を行った。

例えば、コロナ禍で余儀なくされた「人数制限」や「事前予約制」については、少人数で行うことによってきめ細やかな指導が受けられたことなどを理由に、利用者から好評を得られたという館が複数あった。運営側としても、少人数で行うことで安全性の配慮がしやすく、スタッフのフォロー等により以前よりも難易度の高いプログラムが行えるようになるなど、事業内容の充実につながったことから、今後も継続していきたいとの声が多く聞かれた。多くの人に楽しんでいただくための「数」を重視した事業が求められる一方、少人数ならではの「質」を高めた事業を求める層もいるという事実は、今後の事

業計画において重要な観点となりそうである。

同様に、オンライン予約・決済システムの導入については、利用者の選択肢を増やすために導入を検討していた館が多い中、コロナ禍で一気に需要が加速したという印象がある。導入時の経費や決済手数料など館への負担が大きい側面もあるが、入場行列の解消や来館者数の予測が可能になるなどのメリットもあるため、今後も導入する館がますます増えていくことが予想される。

また、YouTubeやX(旧Twitter)によるオンライン配信等も多く館が実施しており、好評であった。配信内容は、実験や簡単な工作、天体観測のライブ配信など様々であり、来館者以外の層にも広く興味を持ってもらうために有効であるとの声が多く、今後も継続していきたいとのことであった。

コロナ禍を経た今、単純にコロナ以前の運営方法に戻すのではなく、コロナ禍で顕在化した利用者のニーズを踏まえ、より満足していただける事業内容や開催方法、運営方法を模索していくことが重要である。時代の変化に即した事業を提供していくために、今後も科学館・博物館同士のネットワークを活用して情報交換を続けていきたい。

[札幌市青少年科学館 高橋志織]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

## アルテの盆踊り～「炭山の記憶」事業

美唄市は、かつて北海道有数の産炭地でした。炭鉱は日本経済を支えた「産業」としてのイメージが強い一方、「そのヤマで暮らす人はみんな家族」を意味する「一山一家(いちざんいっか)」という言葉があるほど、人と人が強い絆で結ばれており、そこには喜怒哀楽がギュッと詰まった人々の営みがありました。

当時、炭鉱夫などの子どもが過ごした木造校舎や体育館は、アルテピアッツァ美唄の中にまだ生きています。ここを訪れ、懐かしい思い出話を聞かせてくださる方も少なくありません。その大切な炭鉱の記憶や思いを、次の世代へ繋いでいくことができれば…と、当館では、お盆の時期を中心に「炭山の記憶」事業として、毎年いくつかの行事を開催しています。

8月13日に開催している「アルテの盆踊り」は、北海盆唄の音頭にあわせ、生の太鼓の音で踊ります。今年の13日は日曜日だったこともあり、大人から子どもまで、特にたくさんの方で賑わいました。踊りの輪の外では、久々に再会する人たちも多かったようで、「お元気そうで!」「久しぶりだねえ」という会話も聞こえています。



盆踊りの夜だけの「水の広場」キャンドル点灯

そして、この夜だけ、特別に「水の広場」にみんなで手作りしたキャンドルを灯します。盆踊りの日、親子三代で、地域の人々と一緒に、日暮れまでみんなで賑やかに過ごす—そんな時間は、炭鉱旺盛期にも同じように流れていたのでは…と想像されました。

来訪者をいつでも大らかに迎えるアルテピアッツァ美唄の空間には、「時の積み重ね」と「人の営み」が無くてはならない要素であることを、賑やかな盆踊りを通してしみじみ感じる夏でもありました。また来年の夏も「アルテの盆踊り」を行う予定です。ぜひ踊りにいらしてください。

[安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄  
学芸員 泉沙希]

## イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2023年10月～2024年3月

発行日に終了しているイベントも含まれます。詳細は各館園にお問い合わせください。

## 石狩

## いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
9月～11月	テーマ展「漂着物の考古学」

## 小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
8/4～11/30	企画展「生誕150年記念 比田井天来展」
10/14	ギャラリートーク「国際現代書道展審査会員・原田書道教室主宰 原田尚華先生」
11/11	ギャラリートーク「北海道書道展会員・国際現代書道展審査会員 水間雅猪先生」
12/7～2024/3/31	企画展「蝦夷地から北海道へ 時代の群像の書展」
12・2024/1・2・3月	ギャラリートーク(未定)



**北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)**

期間	タイトル
10/14～10/22	寒地稲作成功 150 周年記念事業 2023 旧島松駅通所ライトアップ～秋編～
10/28～2024/2/25	企画展「寒地稲作成功 150 周年記念事業 企画展『中山久蔵展～第二弾』」
11/18	寒地稲作成功 150 周年記念事業 古文書教室～中山久蔵の古文書を読んでみよう～ (北海道立文書館共催事業)

**札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)**

期間	タイトル
10/15	大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング

**札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)**

期間	タイトル
～11/3	所蔵作品常設展「札幌芸術の森野外美術館」
～11/23	企画展「深堀隆介展 水面（みなも）のゆらぎの中へ」

**北海道博物館 (011-898-0456)**

期間	タイトル
10/7	ミュージアムカレッジ「アイヌ語アーカイブを使ったアイヌ語学習」
10/15	ミュージアムカレッジ「カラフトナヨロ文書とアイヌ乙名の両属をめぐって」
10/28, 11/25, 12/23, 2024/1/20, 2/17, 3/16	連続講座「アイヌ語オンライン『アイヌ語の物語を読む』(全6回)」
10/29	特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」
11/3	講演会「アイヌの隣人たちーウイльтаのことばを学ぶ」
11/5	子どもワークショップ「親子で探検！森のコレクションをつくろう」
11/12	子どもワークショップ「稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！」
11/19, 12/10, 2024/1/21, 2/11	連続講座「ちゃれんが地学講座(全4回)」
11/26	ちゃれんがワークショップ「恐竜やアンモナイトがいた頃の岩石をつかって、地質図をつくってみよう！」
12/16	子どもワークショップ「化石を研究してみよう！」
12/17	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願！？日本の画材で絵馬づくり」
2024/1/7	ミュージアムカレッジ「ハレの日の装い」
2024/1/13, 1/20, 1/27, 2/3, 2/10, 2/17, 2/24, 3/2	連続講座「はじめての古文書講座(全8回)」
2024/1/14	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう」
2024/1/28	子どもワークショップ「博物館のなかで宝さがし」
2024/2/10～4/7	第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱ースタッフイチ推しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや展乱会！？」
2024/2/25	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう① 初めての草木染め」
2024/3/2	自然観察会「動物の足あとを探そう」
2024/3/10	特別イベント「クマゲラー斉調査 2024」
2024/3/17	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう② フェルトの雪だるまストラップ」

## 北海道立近代美術館 (011-644-6882)

期間	タイトル
9/16～11/12	特別展(展示室A)「揺さぶる絵 変貌する日本画のイメージ」 同時開催「アール・ヌーヴォー 自然を映しだすガラスアートギャラリー北海道 小川原脩記念美術館コレクション展」
9/16～11/12	特別展(展示室B)「札幌テレビ放送創立65周年記念 足立美術館所蔵 近代日本画と北大路魯山人展 一和の美、再発見。」
10/7, 10/29, 11/6	「足立展」関連 見どころ解説
10/14	「揺さぶる絵」関連講演会「中村正義、挑む！」 (講師：丸地加奈子氏；豊橋市美術博物館学芸専門員)
10/21, 11/11	「揺さぶる絵」関連 見どころ解説
10/21	「アール・ヌーヴォー」関連 見どころ解説
10/28	「揺さぶる絵」関連講座「揺さぶる絵一片岡球子と中村正義を中心に」
11/3, 11/5	「小川原脩展」関連 ギャラリー・ツアー
2024/1/13～3/10	特別展(展示室A)「A I N U A R T—モレウのうた」
2024/1/20～2/25	特別展(展示室B)「札幌国際芸術祭2024 S I A F 2024」
2024/3/23～6/16 (予定)	近美コレクション(展示室A)「越境者パスキン ほか」
2024/3/23～3/31	第90回記念独立展 北海道展
火曜日～土曜日 (祝日除く)	「アール・ヌーヴォー」関連 ギャラリー・ツアー

## 北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/1～2024/3/31	常設展「北海道の文学」
9/9～11/7	特別展「『スーホの白い馬』の画家 赤羽末吉」
10/1, 12/24, 2024/2/4, 3/3	子供向け絵本の読み聞かせ「わくわく～こどもランド『絵本の読み聞かせほか』」
10/8, 10/9	中島公園ぶんがく縁日
10/12, 11/9, 12/14, 2024/2/8, 3/14	朗読会「月例朗読会『北の響～名作を声にのせて』」
10/17～12/28	常設展「アーカイブ 文学館コレクション 新収蔵品から」
10/29	文字・活字文化の日関連事業
11/3	朗読会「古典の日記念朗読会」
11/5	子供向け人形劇「わくわく～こどもランド『親子で楽しむ人形劇』」
11/18～2024/1/21	特別展「左川ちか 黒衣の明星」
11/19	映画鑑賞「乳房よ永遠なれ」
12/3	子ども向け手作り教室「わくわく～こどもランド『手作り教室・ツリーをつくろう!』」
12/10	子ども向け手作り教室「わくわく～こどもランド『手作り教室・すごろくをつくろう!』」
2024/1/8	子ども向け手作り教室「わくわく～こどもランド『手作り教室・ウインターブックをつくろう!』」
2024/1/16～3/24	常設展「アーカイブ 来道歌人の詠んだ北海道」
2024/2/3～3/24	特別展「100年の時を超える—〈明治・大正期刊行本〉探訪—」
2024/2/18	映画鑑賞「燃えよ剣」

## 空知

## 月形樺戸博物館 (0126-53-3443)

期間	タイトル
10/8	講演会「樺戸集治監の歴史（場所：月形樺戸博物館）」
10/29	講演会「彫刻家・本田明二の世界（場所：ツキガタアートヴィレッジ）」

## 星の降る里百年記念館 (0124-24-2121)

期間	タイトル
10/4～11/2	特別展「芦別130周年・市政施行70周年記念『1973→2023～50年前のタイムカプセル収納品展』」

## 後志

## 有島記念館 (0136-44-3245)

期間	タイトル
7/15～10/9	内田正泰・藤倉英幸展 はり絵に託した風景たち
10/9	若手演奏家コンサート
10/28	イノヤマランド
10/28～11/12	第35回有島武郎青少年公募絵画展
11/25～	冬の藤倉展

## 余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
9/16～12/10	企画展「左川ちか BLUES」

## 渡島

## 市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
通年	収蔵資料展「はこだての歩み」
通年	収蔵資料展「箱館戦争」
10/24～	収蔵資料展「函館の円筒土器文化」
10/24～	ロビー展「函館大火90年 昭和9年3月21日 函館の街が焼けた日」
通年	おもてなし講座「展示解説」（要事前予約）
通年	おもてなし講座「バックヤードツアー」（要事前予約）
～10/31	おもてなし講座「見せませ！お宝公開！」（要事前予約）
～10/31	おもてなし講座「明治の博物館見学」（要事前予約）

## 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

期間	タイトル
10/7～12/3	特別展「写真展『岩合光昭の日本ねこ歩き』」
10/7～12/3	常設展「中野北溟《津軽》/金子鷗亭Ⅱ期『故郷への思い』」



10/8	講演会「中野北溟《津軽》展 朗読とトーク」(要観覧料)
10/21	映像事業「特別上映会『こねこ』」
10/28	創作・体験事業「ワークショップ『毛糸でモフモフのねこを作ろう』」(要申込・参加料)
11/3	創作・体験事業「北海道松前高等学校書道部による書道パフォーマンス」
11/11	映像事業「特別上映会『緑のねこ』」
12/23～2024/4/14	特別展「生誕120年 前田政雄展」
12/23～2024/4/14	常設展「新収蔵品展/金子鷗亭Ⅲ期『生誕140年 孤高の書家・中野越南』」
(12月を除く)各月	映像事業「美術映画会『美の巨人たち』シリーズ」

**函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)**

期間	タイトル
10/9	期間限定縄文体験学習「中空土偶をだっこしてみよう」
11/11	縄文時代のモノづくり体験② 黒曜石の石鏃づくり
11/18～11/26	縄文文化特別研究成果発表展示
2024/1/6, 1/7	冬休み限定縄文体験学習「縄文体験・土偶づくり」
2024/3/9	令和5年度 遺跡調査報告会
2024/3/19～3/30	春休み限定縄文体験学習「縄文世界遺産クイズラリー」

**森町公民館 郷土資料室 (01374-2-3479)**

期間	タイトル
なし	なし

**胆振****国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914)**

期間	タイトル
9/16～11/19	特別展示「第7回特別展示『考古学と歴史学からみるアイヌ史展—19世紀までの軌跡—』」
10/7	トークイベント「アイヌ史にみる動物の話」
10/14	ギャラリートーク 第2回
11/3	ギャラリートーク 第3回、第4回
11/4	ギャラリートーク 第5回
11/18	ギャラリートーク 第6回
12/23～2024/2/18	第5回テーマ展示「MINA MINA — Marl the Ghost and Some Beautiful Words — ミナ ミナ 『おばけのマールとすてきなことば』原画展 [1期]」(仮)
2024/3/16～5/12	第5回テーマ展示「MINA MINA — Marl the Ghost and Some Beautiful Words — 『おばけのマールとすてきなことば』原画展 [2期] MINA MINA — Marl the Ghost and Some Beautiful Words —」(仮)

**沙流川歴史館 (01457-2-4085)**

期間	タイトル
10/3～12/3	特別展「二風谷の銘石とアオトラ石-生業を支える石たち-

**苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)**

期間	タイトル
4/29～11/19	中庭展示「Vol.19 大島慶太郎『MONOGRAMS』」
9/23～11/19	特別展「出光美術館近代美術名品選—四季が彩る美の世界」
12/9～2024/1/28	企画展「昔の道具～水と暮らし～」
12/9～2024/3/24	特集展示「THE SNOWFLAKES 展」
2024/2/10～3/24	企画展「鹿毛正三 —アトリエより—」

**室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)**

期間	タイトル
9/12～10/15	ロビー展「大関 北葉山」
10/29	とんてん館寺子屋教室『焼き芋と木製コースターづくり』体験学習会
11/23	とんてん館寺子屋教室「干支凧づくり」体験学習会
12/10	とんてん館寺子屋教室「しめ縄づくり」体験学習会

**日高****アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)**

期間	タイトル
10/3	講演会「アポイカレッジ&アポイ岳自然セミナー『北海道・超塩基性岩地の植物～カンラン岩、蛇紋岩地の植物を訪ねて～』」

**えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 (01466-2-2410)**

期間	タイトル
10/7	えりも宝見学ツアー（自然景観）
10/14	猿留山道を歩く会
10/28	えりも宝見学ツアー（アイヌ文化）

**平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)**

期間	タイトル
10/3～12/3	特別展「二風谷に生きたマンロー先生」
10/15	特別展関連講座 講座1「マンロー邸の建設と北大への寄贈並びにマンロー先生顕彰碑建立」(出村文理氏)、講座2「タイトル未定」(内田順子氏)
11/25	特別展関連事業「イオマンテ映像上映会」

**上川****旭川市博物館 (0166-69-2004)**

期間	タイトル
11/3	イベント「アイヌ文化に親しむ日」
11/23～12/24	企画展「アイヌのゴザ展(仮)」

**士別市立博物館 (0165-22-3320)**

期間	タイトル
9/9～11/26	企画展「タイムカプセル～博物館の古文書展」
10/9～10/29	臨時企画展(ミニ個展)「士別駅ヒストリー」
10/22	主催講座「古文書教室(第2回)」
10/29	主催講座「自然創作体験」
11/11～12/3	特別企画展「日本版画協会巡回士別展」
11月中旬	主催講座「特別企画展関連講座」
11/26	主催講座「古文書教室(第3回)」
12/2	主催講座「昔の手仕事」
12/9	主催講座「科学工作体験」
12/16, 2024/2/17	主催講座「冬の自然観察会(全2回)」
12/23	主催講座「古文書教室(第4回)」
2024/1/8	主催講座「サイエンスフェスティバル」
2024/2/3～3/3	季節の行事展「桃の節句」
未定	臨時企画展「道北地区博物館等連絡協議会巡回展」

**土の博物館 土の館 (0167-45-3055)**

期間	タイトル
10/19～10/20	展示会「農機(農業機械)展示会」

**中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)**

期間	タイトル
10/7～2024/1/8	企画展「収蔵品展(中原賞関連展)」(ステーションギャラリー; 仮)
10/21～2024/2/18	企画展「椎名澄子 彫刻展『風にふれて』」(本館)
11/23	教育普及行事「彫刻教室『キーホルダー制作で簡単鋳造体験』」
11/26	教育普及行事「彫刻教室『そっくり!ビックリ!どっちが本物?かんたん型取り体験』」
2024/1/13頃～3/20頃	企画展「チェアーズギャラリー展 II期」(ステーションギャラリー; 仮)
2024/2月下旬 ～次年度(未定)	企画展「収蔵品展」(本館; 仮)

**北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)**

期間	タイトル
9/23～11/19	特別展「竹久夢二展～憧れの欧米への旅～」
9/23～12/10	常設展「木の匠たち伝と王工芸から家具、クラフトまで」
10/6	ギャラリートーク「中石瑛氏ギャラリートーク&講演会」
10/7	講演会「中石瑛氏ギャラリートーク&講演会」
10/12, 11/2	ギャラリートーク「マダムケロコと学芸員のギャラリートーク」
10/29	特別展「お茶会」
11/10, 11/18	解説「30分でわかる!学芸員の見どころ解説」
12/2～12/10	貸館「創立60周年記念書創展・併催赤石蘭邦展」
2024/1/6～3/17	特別展「蔵出し!木彫りの味わい」



2024/1/6～1/14	貸館「福瀬餓鬼 米寿記念『書・墨彩・篆刻』展」
2024/1/18～3/17	常設展「北海道美術の1980年代」

## 宗谷

情報なし

## オホーツク

## 斜里町立知床博物館 (0152-23-1256)

期間	タイトル
～12/17	展覧会「第42回特別展『斜里平野の魅力 -人と自然による景観形成の歴史-』」
10/21	講座「地質観察会」
10/25	施設公開「農業資料等収蔵施設一般公開」
2024/1/20～3/31	展覧会「巡回展『カメラは見た！動物たちの素顔』」

## 博物館網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
10/1	体験講座「革のキーリング作り」
10/22	特別イベント「博物館友の会による重要文化財強化月間イベント」
11/1～2024/2/29	企画展「典獄の仕事」
11/12	体験講座「クルミ染めのエプロン作り」
12/3	体験講座「水引の正月飾り作り」
12/26	年中行事「正月準備（鏡餅・繭玉作り）」
2024/1/7	年中行事「七草（七草粥の提供）」
2024/1/11	年中行事「鏡開き（お汁粉の提供）」
2024/2/3	年中行事「節分（厄除けの豆の提供）」
2024/3/3	年中行事「雛祭り（桜餅と甘酒の提供）」

## 美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/9	ロビー展「すごい標本！すごい資料！」
～10/22	特別展「カメラが見た！動物たちの素顔」
10/1	イベント「開館記念日記念行事」
10/14～11/5	ロビー展「文化人類学者 山口昌男展」
10/21	観察会「ポータブル魚道をもっと使ってみよう」
10/27, 10/28	プチ工房「ストローパイプ笛」
11/3～11/26	企画展「交通安全ポスター作文展」
11/11	講演会「ヒダカソウが教えてくれること」
11/17, 11/18	プチ工房「ヘンプのプレスレット」
12/9～2024/1/14	企画展「おひろめコレクション展」
12/15, 12/16	プチ工房「モールサンタ」

12/16	講演会「美幌懐かしの学び舎」
2024/1/12, 1/13	プチ工房「モザイクタイルのコースター」
2024/1/2	イベント「みどりの村雪の遊び広場記念行事」
2024/2/3～3/3	企画展「冬季作品展」
2024/2/10	体験会「スノーシューで樹木観察」
2024/2/10～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2024/2/16, 2/17	プチ工房「偏光万華鏡」
2024/3/15, 3/16	プチ工房「草木染めのコットンバック」
2024/3/23	講演会「私たちのふるさと情報」
2024/3/23～10/20	特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

### 北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/3～10/29	写真展「オホーツク物語 2023」-西紋写真部作品展-
10/7, 11/4	ビーチコーミング
10/15, 11/19, 12/17, 2024/1/7, 2/4, 3/17(予定)	今月のプラネタリウム
11/10～12/10	第9回 木の香り こがし絵展
12月	へタでもいいお絵かき会
12月下旬 ～2024/1月下旬	コムケ写真展 ～コムケ案内人が出合った自然風景～
2024/1月	冬のギザまつり
2024/1月	科学教室
2024/2月	流氷織物展(予定)
2024/3月～4月	写真展オホーツク物語 5(仮称)
2024/3月下旬	春休みイベント

### 北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
10/7	はくぶつかんクラブ「白樺の皮で編むカードケース」
11/3～12/10	ロビー展「写真で振り返る日本のアラスカ調査 3」
11/3～12/10	ロビー展「東京文化財研究所・北海道立北方民族博物館共同研究展」
11/5	講座「ユネスコ世界遺産『北海道・北東北の縄文遺跡群』と北海道の縄文文化」
11/11	講座「文化財写真の魅力と役割」
11/18	講座「北海道博物館紀行 美幌博物館」
12/9	はくぶつかんクラブ「皮とフェルトで作るカレンダー」
12/10	講座「アラスカのごみ問題」
12/17	講座「雪上の移動用具」
2024/1/4～1/21	ロビー展「オホーツクシリーズ⑩ 北の状景から」
2024/1/13	講習会「はじめての歩くスキーツアー」
2024/1/20	はくぶつかんクラブ「フェルトの動物オーナメントで作るサンキャッチャー」

2024/2/3	企画展講演会
2024/2/3～4/7	企画展「ユーコン・ファーストネーションの伝統的アート様式」
2024/2/17	はくぶつかんクラブ「かんじき体験」
2024/2/18	講座「北米での北方文化研究 35年を振り返る」
2024/3/10	上映会「北方民族博物館シアター 冬」
2024/3/16	講座「北米先住民の宝物」

**北網圏北見文化センター (0157-23-6742)**

期間	タイトル
9月下旬～11月上旬	講座「絵画講座『やさしい美術』」

**紋別市立博物館 (0158-23-4236)**

期間	タイトル
9/30～10/29	特別展「アートとの対話 jobin. 『回る想い』」
10/7～10/29	特別展「牛の獣医のお仕事紹介」
10/8	博物館講座「牛について」
10/15	子ども考古学体験「火おこし体験」
10/22	博物館講座「折り紙で牛を折ってみよう！」
11/1～11/5	紋別市民美術展
11/8～11/12	紋別市民芸術祭
11/18～12/10	特別展「北海道写真協会紋別支部写真展」
11/19	子ども考古学体験「石器作り体験」
12/3	博物館講座「ガラス玉を作ろう！」
2024/1/27～2/18	企画展「博物館収蔵資料展」
2024/2/18	博物館講座「考古学入門」
2024/3/9～3/24	特別展「第19回博物館サークル活動合同作品展」
2024/3/17	博物館講座「懐かしの街頭紙芝居とあめ細工」

## 十勝

**帯広百年記念館 (0155-24-5352)**

期間	タイトル
10/1, 10/15, 10/29, 11/12	連続講座「十勝の古文書を読む」
10/7～10/29	ロビー展「アイヌ文化ロビー展」
10/20～11/12	企画展「収蔵美術作品展 天と地の境界で」
10/21	博物館講座「アイヌ口承文芸の整理と公開」
11/18	博物館講座「ものがたりの昆虫10」
12/16	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
12/23	体験教室「縄文の形を彫る！～消しゴムはんこ～」
2024/1/6～2/4	ロビー展「動画で旅する十勝の歴史4」
2024/1/19～2/4	第42回郷土美術展



2024/2/10～3/3	ロビー展「ひな人形展」
2024/2/11～3/3	ロビー展「デッサン教室作品展」
2024/2/17	博物館講座「帯広の博物館活動をふりかえる」
2024/3/16	博物館講座「学芸員のしごと 学芸活動報告会」

**上士幌町ひがし大雪博物資料館（ひがし大雪自然館）（01564-4-2323）**

期間	タイトル
10月～2024/3月	企画展「冬鳥展」
10/14	自然観察会「十勝石観察会」
10/29	自然観察会「地形と地質編」
11/3	体験型行事「自然館まつり」
2024/1/28	自然観察会「歩くスキー編」
2024/2/18	自然観察会「ワシ・タカ編」
11月～2024/3月 (第3日曜日)	体験型行事「バックヤードツアー」

**神田日勝記念美術館（0156-66-1555）**

期間	タイトル
10/3～10/10	絵画コンクール「第29回 馬の絵作品展」
10/3～10/10	感想文コンクール「開館30周年記念事業『絵画感想文コンクール 優秀作品展』」
11/1～12/10	企画展「開館30周年記念展Ⅲ『第2回躍動する十勝の美術作家展』」
11/8～12/10	企画展「開館30周年記念展Ⅳ『十勝水彩作家展』」
12/8	第21回 日勝祭
12/13 ～2024/4月上旬	収蔵品展「2023年度コレクション展Ⅱ×ミニ企画展『日勝×〈文学〉展』」
年4回	ワークショップ「アート・キッズ・クラブ（小学生対象）」
2024/1月上旬	ワークショップ「冬休み子どもワークショップ（小学生対象）」

**広尾町海洋博物館（01558-2-0181）**

期間	タイトル
なし	なし

**北海道立帯広美術館（0155-22-6963）**

期間	タイトル
9/9～11/19	特別展「リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界ークラシックな名作とともに」
9/9～11/19	コレクションギャラリー「Home」
10/8, 11/3, 11/5	特別展関連展示「ぬり絵の日」
10/22	特別展関連事業「特別展セミナー『リサ・ラーソン：Seen and Unseen』」
12/2～2024/1/28	特別展「深堀隆介展 水面の揺らぎの中へ」
12/2～2024/3/10	コレクションギャラリー「プレイバック平成☆十勝美術の30年」
2024/2/10～3/10	特別展「坂本直行展 ～直行さんの足あと～」

## 釧路

## 厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

期間	タイトル
10/18～11/12	展覧会「宇宙の日の作品展」
12/16～2024/1/19	巡回展「近世探査機『あかつき』」

## 釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
10/7～10/9	企画展「遊びんピック2023『あつまれ！ハロッド探偵団～怪盗Xが狙っているお宝を守れ！～』」
10/15	実験教室「手作り乾電池」
10/21	夜間特別投影「プラネタリウム誕生100周年記念イベント」
11/3	企画展「サイエンス屋台村」
12/16, 12/17	ワークショップ「クリスマス・スペシャル」
2024/1/4～1/16	企画展「冬休みイベント」
2024/1/7	企画展「ジオ・フェスティバル」
2024/1/20, 1/21	サイエンスショー「教育大学のお兄さん・お姉さんがサイエンスショーにやってくる！」
2024/2/17, 2/18	企画展「とり+かえっこ」
2024/3/2, 3/3	ワークショップ「ひなまつりスペシャル」
2024/3/23～4/4	企画展「春休みイベント」

## 釧路市立博物館 (0154-42-5809)

期間	タイトル
7/22～10/15	企画展「まもる、つかう、のこす～釧路湿原を未来へ」
8/27～2024/4/7	ミニ展示「雄別鉄道開業100年」
10/1	第34回博物館まつり
10/15, 11/19	観察会「春採湖畔探鳥会」
10/21～11/12	写真展「私の博物館『写真展 日本製紙釧路工場』」(仮)
11月上旬	講演会「マリモ水槽リニューアル記念講演会」
11/3～12/3	写真展「釧路市立博物館の40年を振り返る」(仮)
11/5	体験講座「化石クリーニング教室」
11/18～2024/2/3	企画展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学の泰斗～」(仮)
11/19	探訪会「雄別鉄道100年バス見学会」
11月～ 2024/1月(3回)	講演会「久保寺逸彦展関連講演会」
12/27	体験講座「おそなえもちをつくろう」
2024/1月上旬	体験講座「子ども向けアイヌ語講座」
2024/1/28	友の会講演会「北海道の駅弁史」(仮)
2024/2/10～3/10	巡回展「第29回タンチョウイラスト展」
2024/2/17	観察会「冬のいきもの観察会」
2024/3/15～4/21	写真展「環境省アクティブレンジャー写真展」(仮)

## 北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
9/16～11/12	開館 25 周年記念 あなたはイヌ派？それともネコ派？ディズニー キャッツ&ドッグス展
9/16～11/26	同時開催 たのしいワン！かわいいニャン！かもめのももちゃんと見る Cats&Dogs
10/14	「北海道教育の日」協賛事業 パフォーミング・シアター2023 出前遊学館サイエンスショー 液体窒素で大噴射！ in 釧路芸術館
11/3	道銀文化財団 Art Ensemble #18 北海道立釧路芸術館開館 25 周年記念コンサート シューマンたちが夢見たおとぎ話
11/8, 11/15, 11/22	大人の家庭科&お気軽アート教室 ※各日内容が異なります。
11/9～11/26	描かれた毛綱建築 毛綱毅曠ミニ展示
11/11	道立芸術館&市立美術館 めぐる×つくる 2023 毛綱建築とアート展をめぐるバスツアー
11/18	松ぼっくりツリーに挑戦！
11/25	アートシネマ館「グリーンブック」
12/9～2024/4/7	開館 25 周年記念 釧路芸術館・珠玉のコレクション あなたとともに 25 年
12/16	アートシネマ館「クーパー家の晩餐会」
12/26～2024/1/16	冬のキッズ・アトリエ
2024/1/20	アートシネマ館「老後の資金がありません！」
2024/2/24	アートシネマ館「明日に向かって笑え！」
2024/3/2, 3/9, 3/16	大人の寺子屋—びじゅつの時間— ※各日内容が異なります。

## 根室

## 根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

期間	タイトル
未定	未定

## 事務局からのお知らせ

## ■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■ 4 月から、飯塚美月さん(北海学園大学／4 年生)に臨時職員として事務局の仕事を担っていただいております。

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 133 号

発行日 2023 年 10 月 27 日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com